



「外為短期投資家動向調査」結果

<第44回調査>

2013年01月28日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2013年01月15日(火)13:00~2013年01月22日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は1714件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

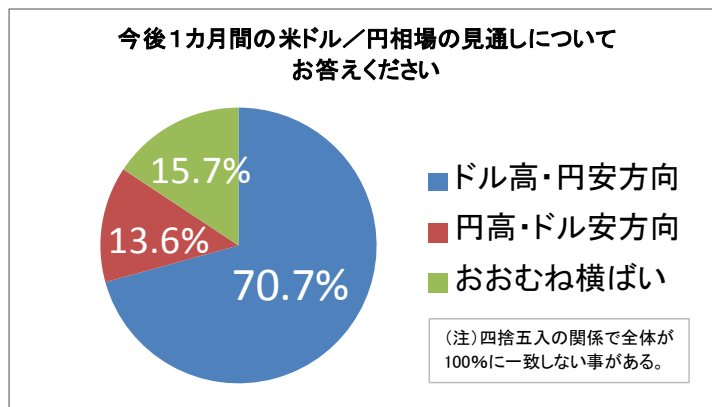
Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第44回調査結果略報：ドル高・円安予想が調査開始以来の高水準】

問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

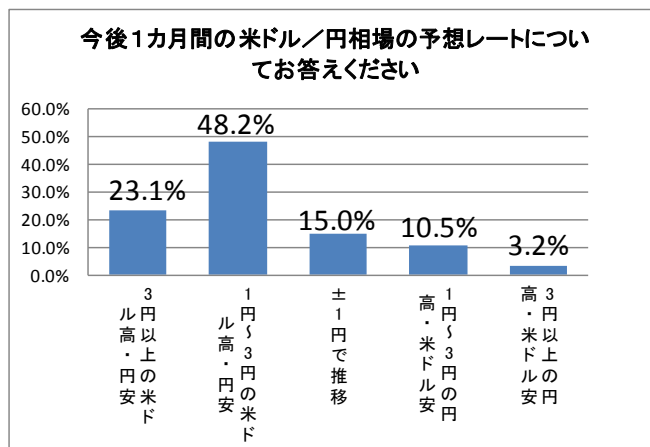
「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が70.7%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は13.6%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は+57.1%ポイントとなり、前月(+52.1%ポイント)に比べプラス幅が拡大した。これは、2009年6月の調査開始以来、最高水準となる。調査期間中のドル/円相場は11月以降の上昇トレンドの中、一時88円を割り込むも切り返して21日には90.24円の高値を付けた。こうした中でFX投資家はドル強気・円弱気に予想を一段と傾けたと考えられる。22日の日銀の金融政策発表後も安倍政権が金融政策をより緩和的な方向に誘導するだろうと見るFX投資家は多いようだ。

※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間のドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円のドル高・円安」が48.2%と最も多く、次いで「3円以上のドル高・円安」が23.1%、「±1円で推移」が15.0%、「1円～3円の円高・ドル安」が10.5%、「3円以上の円高・ドル安」が3.2%の順となった。前月に続き、 Histogramの形状は大きくドル高・円安側に傾いており、7割以上のFX投資家が90円台から92円台(調査期間中の終値平均89.24円から推計)への円安推移を予想した事になる。中でも、「3円以上の米ドル高・円安」を予想した割合が前月の14.9%から8%以上も増加している点には注目したい。FX投資家層はこの先1カ月にわたって、円安の進行速度がさらに速まると見ている様子が窺える。



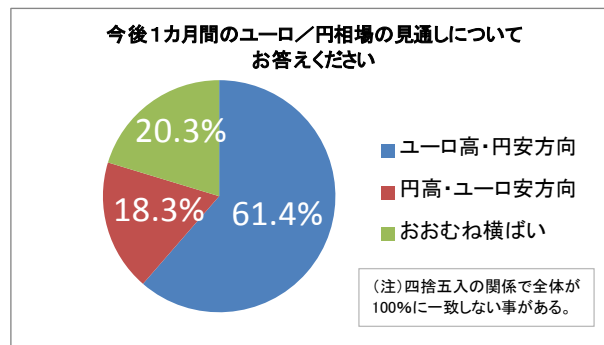
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が61.4%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が18.3%となった。この結果「**ユーロ円予想DI**」は+43.1%ポイントとなり、FX投資家は「ユーロ強気・円弱気」という相場観を強めていることが分かった。今回の予想DIは調査開始以来の最高水準である。調査期間中のユーロ/円相場は欧州債務問題に対する懸念が一服する中で、株高・円全面安となったことから、120円台まで値を伸ばした。この結果、ユーロ/円についてもドル/円と同様、円安が進むだろうとの見方をするFX投資家層が増加したと考えられる。

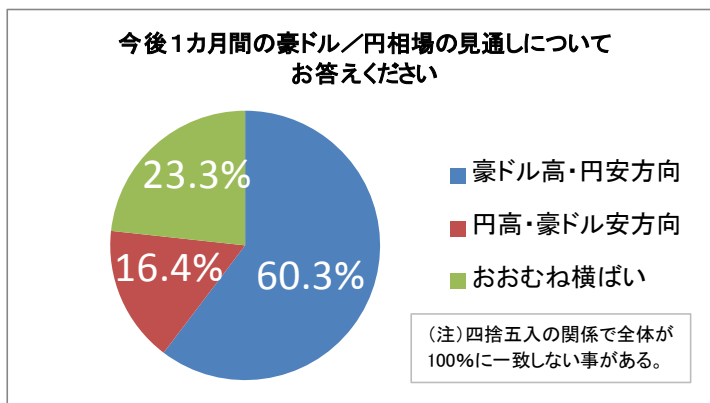
※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が60.3%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は16.4%となった。この結果「**豪ドル/円予想DI**」は+43.9%ポイントとなり、8カ月連続で豪ドル強気・円弱気姿勢を維持、予想DIのプラス幅も4カ月連続で拡大した。これは2009年10月の第5回調査以来の高水準になる。調査期間中の豪ドル/円相場は94円台半ばから押し目を挟みつつも95円ちょうど前後まで上昇しており、当面はこうした上昇局面が続くと考えるFX投資家が一段と増加した模様だ。21-22日の日銀金融政策決定会合後も安倍新政権が円安誘導的な政策を取るとの期待が豪ドル高・円安予想を支えているものと考えられる。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

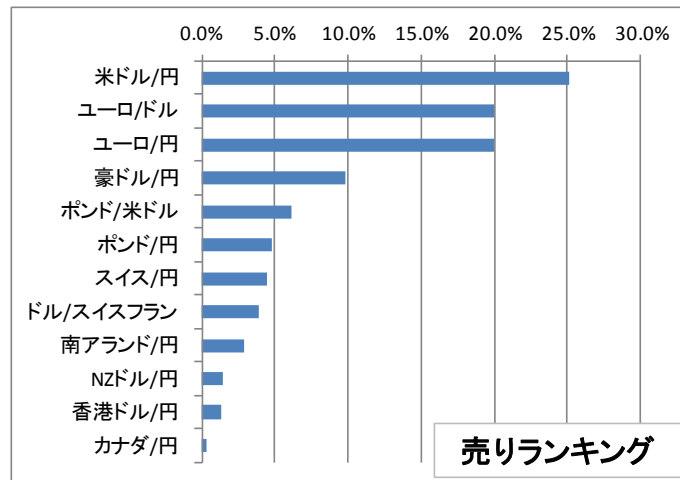
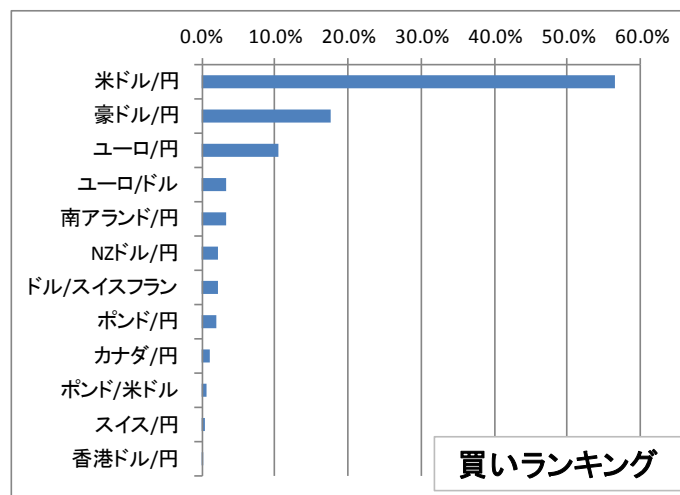


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

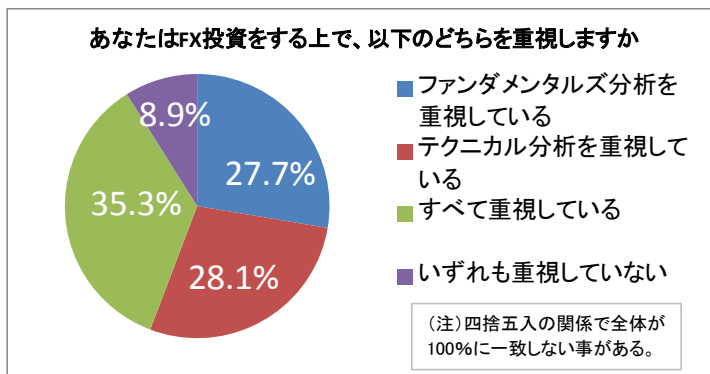
「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(56.5%)、2位豪ドル/円(17.6%)、3位ユーロ/円(10.5%)、4位ユーロ/ドル(3.3%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(25.1%)、2位ユーロ/円とユーロ/ドル(20.0%)が同率、4位豪ドル/円(9.8%)となった。「買い」で注目の上位4通貨ペアについては順位に変動はないものの、ドル/円に対する注目度が圧倒的に高いことが浮き彫りになった。ドル/円のは回答割合は前回から上昇した一方、豪ドル/円、ユーロ/円、ユーロ/ドルは低下した。豪中銀(RBA)の利下げ観測の根強い豪ドルや欧州債務問題が未解決のままのユーロよりも、日本の緩和姿勢強化と米国の早期引き締め観測を鑑みて、わかりやすくドル高・円安が一段と進むと考えるFX投資家が多いという事かもしれない。また、「売り」で注目の通貨ペアでは前回3位だったドル/円が1位となった。ドル/円は2010年6月以来の高値水準まで上昇しており、その分高値警戒感が拡がった可能性がある。なお、ユーロ/円とユーロ/ドル、豪ドル/円の「売り」での注目度は前回調査から低下している。このことから、FX投資家層全体の関心がドル/円に集中してきていることが分かる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

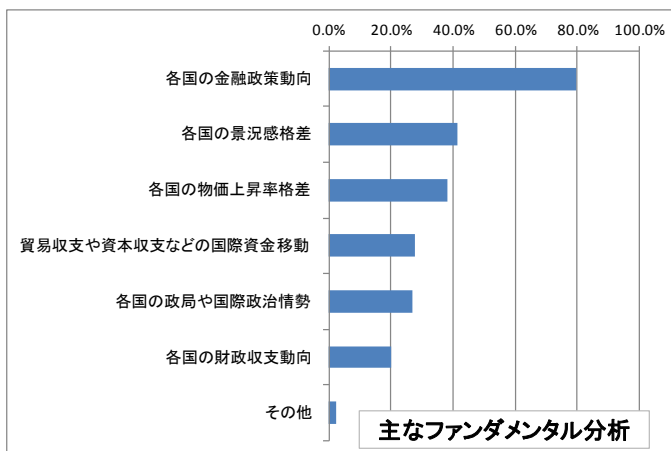
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視」と答えた割合が27.7%であったのに対し「テクニカル分析を重視」と答えた割合が28.1%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が35.3%と引き続き最も多かった。ただ、「すべてを重視している」の回答割合は前回調査から低下し、その分、ファンダメンタルズ重視派とテクニカル重視派に分散して流れた格好だ。ただ、調査期間中は日銀の政策睨みの展開だったためか、ファンダメンタルズ重視派の方がテクニカル分析重視派よりも回答割合の増加幅が大きかった。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか? (いくつでも)

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(79.6%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(41.6%)」、「各国の物価上昇率格差(38.3%)」、「貿易や資本収支等国際資金移動(27.7%)」、「各国の政局や国際政治情勢(26.8%)」、「各国の財政収支動向(20.1%)」、の順に続いた。「各国の金融政策動向」が8割近い回答割合を集めた。前月に続き、日銀に対する金融緩和期待が高かったことが調査結果に影響したものと考えられる。また、欧州債務問題への懸念がやや薄らぐ中、「各国の財政収支動向」の回答割合が前月に引き続き低下する様子も見受けられた。

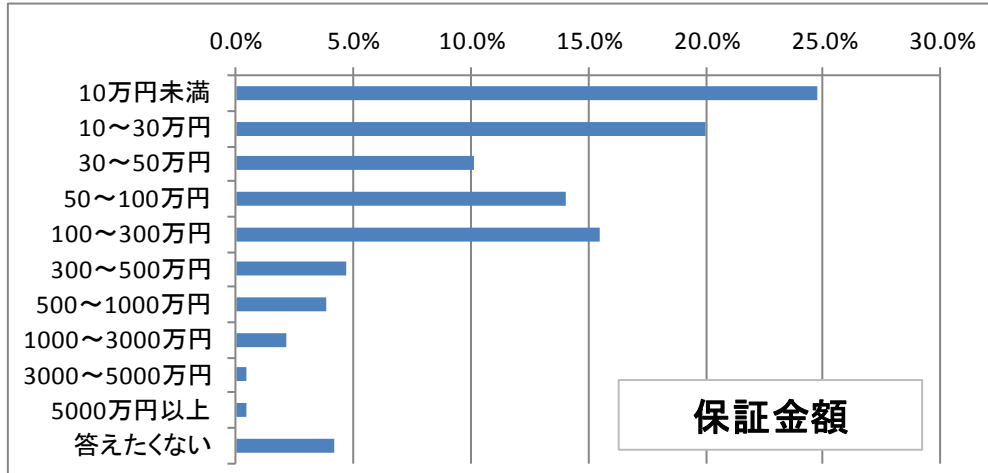


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

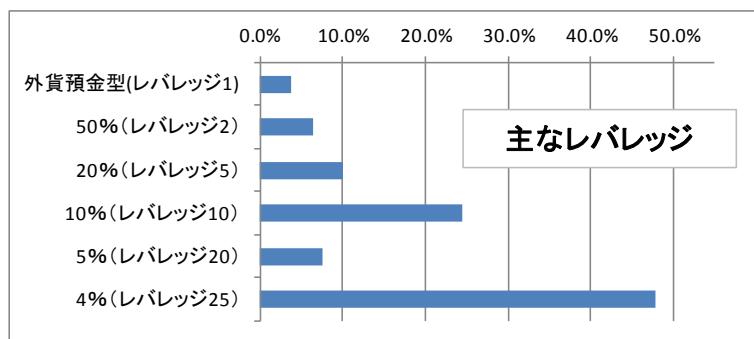
問8:FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が24.7%と最も多く、以下「10～30万円(20.0%)」、「100～300万円(15.5%)」「50～100万円(14.1%)」、「30～50万円(10.1%)」と続いた。合算割合で68.9%ものFX投資家が100万円以下の保証金で取引を行っており、小額の保証金で取引が可能というFXの特性を良く表している。また、今回調査では「10万円未満」「10～30万円未満」という少額層の割合が増加している。2カ月以上にわたる円安局面を眺め、新規に、あるいは取引を停止していた層が少額から取引を開始した可能性もありそうだ。



問9:FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？(ひとつだけ)

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が47.8%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が24.5%、「20%(レバレッジ5)」が10.1%と続き、以下「5%(レバレッジ20)」が7.5%、「50%(レバレッジ2)」が6.4%という結果になった。「4%(レバレッジ25)」の回答割合が前回調査よりもやや低下したが、それ以外の低レバレッジの回答割合が上昇している。これは、持続的な円安進行をみて取引を新規に開始、もしくは再開した層が低レバレッジで参入したことを示唆している可能性がある。なお、今回調査におけるFX投資家が主に活用するレバレッジの平均は16.6倍と、前月の17.3倍からやや低下した。

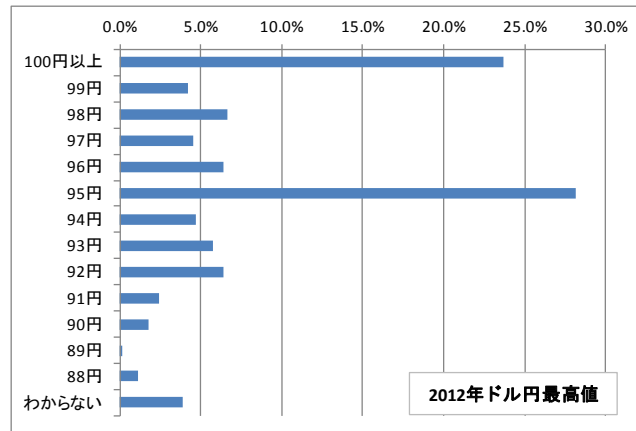


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

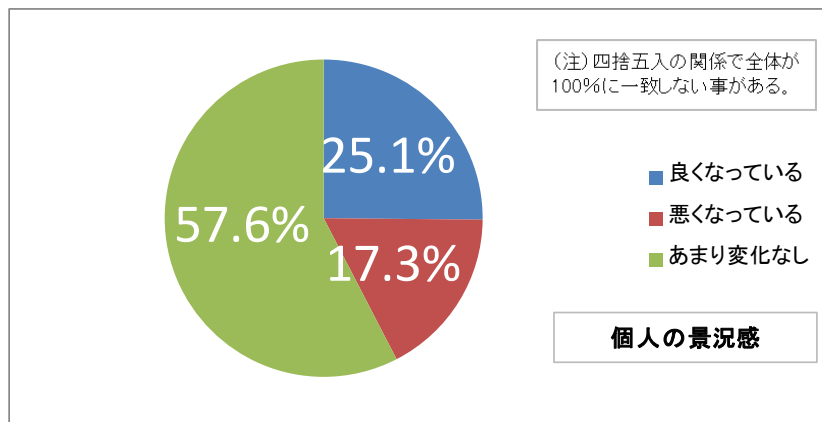
**問10: 2013年のドル/円“最高値”の予想レートをお答えください(ひとつだけ)
また、下のコメント欄に2013年のドル/円“最安値”の予想レートをお書きください。**

今月の特別質問項目として、2013年のドル/円の最高値の予想を尋ねたところ、最も多かったのが「95円」(28.2%)となり、次いで「100円以上(23.7%)」、「98円(6.7%)」、「96円」「92円」(6.4%)の順と、1位と2位が圧倒的な回答割合を集める結果となった。調査期間中に90円を突破したことで、次にキリの良い数字である95円が高い人気を集めた。100円以上を予想するFX投資家も95円予想の層に迫っており、全般的に円の先安観が強いと見られる。また、自由回答の「ドル/円最安値」の予想については、回答が80-85円に集中しており、戦後最安値を更新するような円高・ドル安局面がくると考えているFX投資家は少数派のようだ。



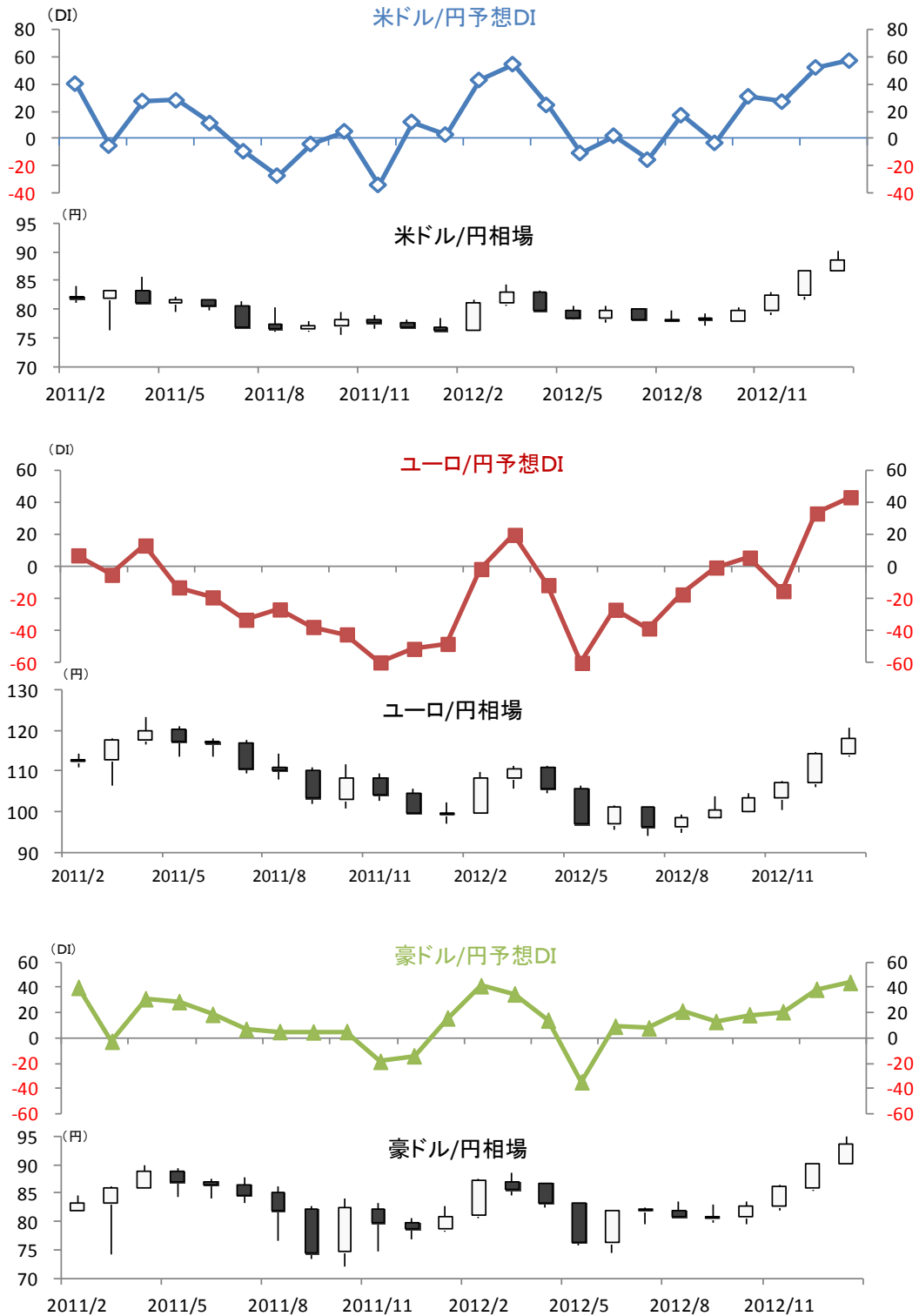
問11: あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)

今月のもうひとつの特別質問項目として、FX個人投資家自身の景況感(ひとつだけ)を尋ねたところ、「あまり変化なし」が57.6%と最も多く、「良くなっている(25.1%)」、「悪くなっている(17.3%)」と続いた。大半のFX投資家の景況感に変化していないようだが、前回調査(10月)では「良くなっている」が11.5%、「悪くなっている」が36.0%だったことを考慮すると、改善傾向であることが分かる。円安の進行や株価の上昇などがマインドの改善に寄与した可能性が高い。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第43回目となりました。調査開始から3年以上が経過し、前月との対比での時系列比較だけでなく、前年同期との比較も可能になってきました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握を進めていきたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2011年	2月	53.2	13.0	40.2	33.6	26.6	7.0	54.8	14.8	40.0
	3月	38.7	43.9	-5.2	35.1	40.2	-5.1	37.7	40.4	-2.7
	4月	48.2	20.7	27.5	43.8	30.7	13.1	51.0	20.0	31.0
	5月	44.3	16.3	28.0	29.4	42.3	-12.9	47.7	19.0	28.7
	6月	33.4	22.1	11.3	25.2	44.3	-19.1	41.2	22.6	18.6
	7月	29.4	38.7	-9.3	22.3	55.3	-33.0	36.2	29.4	6.8
	8月	18.1	45.3	-27.2	20.8	47.4	-26.6	36.3	31.3	5.0
	9月	23.9	27.9	-4.0	21.0	58.5	-37.5	36.4	31.7	4.7
	10月	26.3	21.0	5.3	19.4	61.5	-42.1	40.0	35.0	5.0
	11月	14.5	48.5	-34.0	12.1	71.6	-59.5	26.3	44.9	-18.6
	12月	30.2	18.0	12.2	13.5	64.6	-51.1	27.1	41.3	-14.2
	2012年	1月	25.0	22.1	2.9	17.9	65.9	-48.0	40.5	24.7
2月		57.4	14.5	42.9	36.1	37.6	-1.5	59.1	17.8	41.3
3月		67.0	12.5	54.5	43.4	23.7	19.7	52.5	17.7	34.8
4月		45.1	20.5	24.6	29.8	41.3	-11.5	40.8	26.7	14.1
5月		25.9	36.5	-10.6	11.7	71.5	-59.8	21.2	56.0	-34.8
6月		30.9	28.8	2.1	27.3	54.1	-26.8	41.0	31.8	9.2
7月		18.4	33.9	-15.5	19.7	58.1	-38.4	36.6	28.7	7.9
8月		36.1	19.0	17.1	27.4	44.7	-17.3	43.0	21.8	21.2
9月		27.9	31.0	-3.2	38.7	39.2	-0.6	40.2	27.2	13.0
10月		44.9	14.0	30.9	39.1	33.5	5.6	42.5	24.2	18.3
11月		48.5	21.5	27.0	27.9	43.1	-15.2	44.0	23.3	20.7
12月		69.2	17.1	52.1	56.2	23.2	33.0	56.2	17.7	38.5
2013年	1月	70.7	13.6	57.1	61.4	18.3	43.1	60.3	16.4	43.9

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com